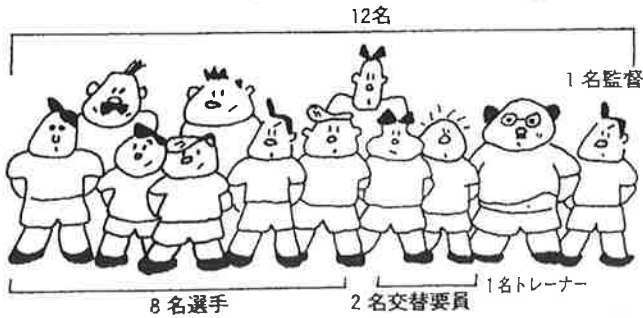


綱引競技の絵で見るルール

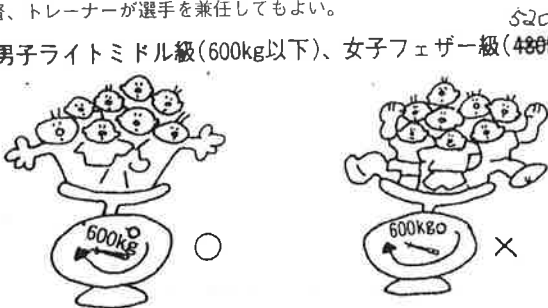
①12人で1チーム、選手は8人。



選手8人、交代要員2人、監督1人、トレーナー1人、計12人編成で競技にあたる。

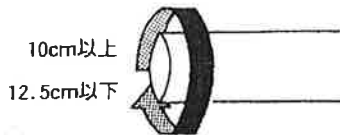
監督、トレーナーが選手を兼任してもよい。

②男子ライトミドル級(600kg以下)、女子フェザー級(480kg以下)



8人の選手の合計体重で各階級に分けられるが、競技開始前に審判員立ち合いのもとで厳正な計量がなされる。

③綱の長さは36m、太さも決まっている。

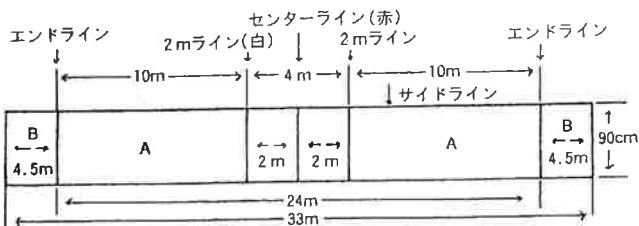


公式競技用の綱は太さ10cm~12.5cm、長さ36mという規定がある。

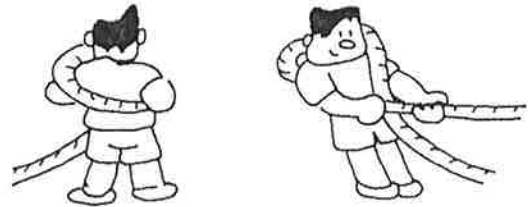


綱には中心に赤マークがあり、ここからそれぞれ2mのところに白マークがある。また、白マークから90cmのところに青マークがある。1番目の選手は青マーク外側のできるだけマークに近いところを持つ。

④競技場は屋内でもOK。⁵⁰

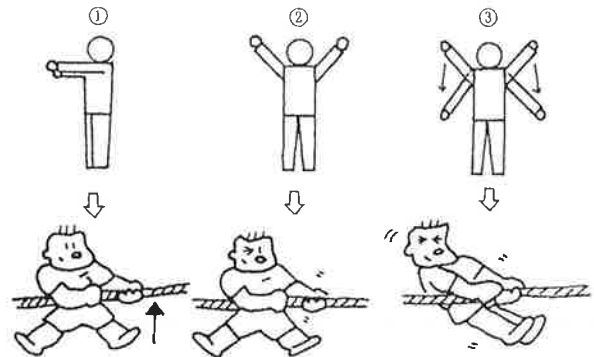


⑤ホットポジション、アンカー



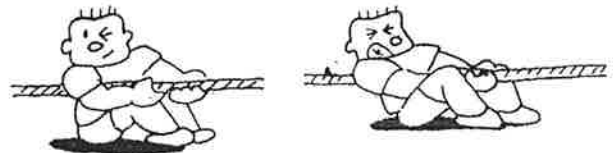
チームの最後部に位置する選手はアンカーと呼ばれ、このような綱の持ち方をする。

⑥主審の合図にしたがって“プル”



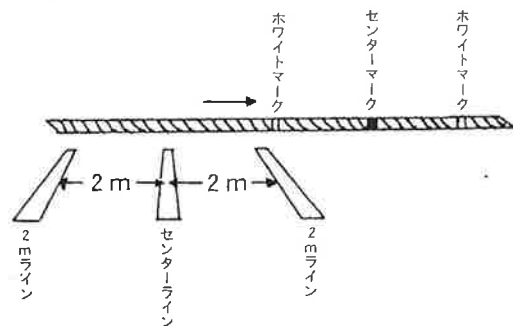
“Pick up the Rope” (ピック アップ ザ ロープ)①の合図で選手は綱を持ち、“Take the Strain” (テイク ザ ストレイン)②で綱引きの体勢に入り“Steady” “Pull” (ステディ) (プル)③で試合開始。

⑦オシリを床や地面につけたら反則。



足以外の身体の部分が床と接触したり、床にすわりこんだり、寝ころんだりしたら反則。ストップしたままの状態でも綱を引き続けることも反則だが、この場合、反則を犯した人は綱から一時手を離し、体制を立てなおしてから競技に復帰することができる。

⑧4m引っぱった方が勝ち。



敵のホワイトマークを2m自分の障地に引っぱりこんだとき、つまり4m自分の方に引きこめば勝ち。勝負は1本引きと3本引き(2本先取)の2種類がある。